


 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)


 No.44

● ● ● 目 次 ● ● ●

・特集：日本生殖看護学会の将来構想の具現化に向けて	1
・第14回学術集会のご案内	2
・第11回生殖看護実践セミナー	3
・これから行われる学会・研修会情報（2016.7～2016.10）	4
・将来検討委員会 勉強会報告	4
・関西地区勉強会報告	5
・平成28年度研究助成	6
・もしも不妊看護の現場で行き詰ったら	7
・理事会報告	7
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8



特 集

日本生殖看護学会の将来構想の具現化に向けて

日本生殖看護学会理事長 野澤美江子

平成28年4月14日、16日と続いた熊本地震で被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。なお、避難生活で不自由な中、不安な日々を過ごしていらっしゃることでしょう。学会として、ご協力できることがありましたら、遠慮なくご連絡ください。今回、実践開発委員会担当理事が中心となり、東日本大震災時と同様、被災地で不妊治療を受けていらっしゃるカップルの相談窓口を設けました。また、治療機関に従事する看護師からの相談も対応可能です。詳細はホームページ【被災地の皆さまへ】（<http://jsin.umin.jp/aid.html>）をご覧ください。

平成27年度の事業計画として提案させていただいた将来構想について理事会で検討を重ねてまいりましたが、現在までの状況を2点、会員の皆様にご報告させていただきます。

●平成28年度科学研究費助成事業として、研究費を獲得

学会役員が中心となって科学研究費助成事業（挑戦的萌芽研究）に申請しましたところ、嬉しいことに研究費を獲得することができました。そのことは、学会としての取り組みが社会に認められたこと、資金源を得て将来構想を具体的に進めることができること、そして成果をより広く広報できることにつながります。その研究について、ご紹介いたします。

「現代社会が求める生殖看護に関わる看護師のコンピテンシーモデルの創生」という研究課題で、平成28年から平成30年の3年計画です。目標として、

- 1：生殖看護の定義および概念を明らかにする
- 2：生殖医療の特性に基づき看護師に求められる役割を明らかにする

3：これらの結果をもとに生殖看護にかかわる看護師のコンピテンシーモデルを提案するを設定しました。本研究の知見は、生殖看護の対象理解を促進し、看護方法および看護師教育に関する知識の創造に役立つことが期待できると考えております。

平成28年度は、生殖医療に関わる不妊症看護認定看護師をエキスパートモデルとして、生殖看護の対象や役割の実際と考えていることなどについてヒヤリングを行います。その後、生殖看護を実践している不妊症看護認定看護師を対象に、日頃対象としている患者、看護実践の状況、その中での役割などについてグループインタビューを行います。また、不妊治療施設に勤務する医師・胚培養士、不妊症患者を対象に、①生殖医療チームの一員として生殖看護の役割に期待すること、②看護師から受けた支援の実際と生殖看護の役割に期待することなどについてインタビューを行う予定です。いずれも会員の皆様にもご協力をお願いすることが出てくると思いますので、その際はどうぞよろしく願いいたします。

●第19回日本IVF学会学術集会への共催

塩谷雅英先生を学術集会会長として、第19回日本IVF学会学術集会が10月1日(土)・2日(日)に神戸国際会議場で開催されます(<http://19th.ivf-et.net/>)。本学会もそこに共催として加わり、パネルディスカッション「現代社会が求める生殖看護に関わる看護師の役割」を行います。前述の研究に関連させて、現在準備をしているところです。会員の皆様にもぜひ活発な議論にご参加いただけますよう、会場でお待ちしております。なお、会員の皆様の参加方法についてご検討いただいておりますので、参加登録手続きは少々お待ち下さい。詳細はホームページでお知らせします。

第14回日本生殖看護学会学術集会のご案内

テーマ：東日本大震災から5年、被災地から発信する生殖看護 -みんなで始めよう！ 自然災害への備え-

日時：2016年9月11日(日) 9時～17時の予定

場所：東北大学医学部開設百周年記念ホール（星陵オーデトリウム）

第14回日本生殖看護学会学術集会は、宮城県、日本看護協会、宮城県看護協会、宮城産科婦人科学会の後援を得、東日本大震災の被災地である宮城県仙台市で開催させていただくことになりました。今年はちょうど被災してから丸5年目の節目の年になります。そこで、メインテーマに「東日本大震災から5年、被災地から発信する生殖看護」を掲げました。近年日本では様々な自然災害が起きています。今年4月の熊本地震でも大きな被害をもたらし、大切な人や財産を亡くした方々、現在も不自由な生活を強いられている方々が大量にいらっしゃいます。改めて、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

このような大災害は、通常日本に住んでいれば誰もが経験する可能性があります。そこで、大災害に際して生殖看護に携わる私たちは何をすべきか、東日本大震災における経験や教訓を共有し、皆さまとともに考えていく機会にしたいと考えております。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

(学術集会会長 高橋恵美子)

●学術集会プログラム(予定)

9:00～9:25	受付開始
9:25～9:30	オリエンテーション
9:30～9:40	開会挨拶 野澤美江子(日本生殖看護学会理事長) 門間 典子(東北大学病院看護部長)
9:40～9:55	会長講演「東日本大震災がARTを受けている女性に及ぼした影響」 演者：高橋恵美子(東北大学病院 不妊症看護認定看護師)
10:00～10:50	基調講演「東日本大震災が岩手県・宮城県・福島県の生殖医療に与えた影響」 演者：星 和彦(スズキ記念病院理事長)
11:00～12:30	一般演題(口頭発表及び質疑応答)
12:40～13:20	ランチョンセミナー(共催：株式会社 北里コーポレーション)「ここまできた凍結技術の進歩！」 演者：京野 廣一(京野アートクリニック理事長)

13：30～14：00	総会
14：10～14：40	一般演題（ポスター）
14：50～16：50	シンポジウム「東日本大震災の経験を通して考える、これからの自然災害への備え」 シンポジスト：医師 菅原 準一（東北大学） 胚培養士 菊地 裕幸（仙台ARTクリニック） 看護師 濱田 結実（スズキ記念病院） 不妊カウンセラー 枝元 直子（筑波学園病院）
16：50～17：00	閉会式

*時間は変更の可能性があります。最新情報はホームページをご確認ください。

●参加申し込み方法

※事前申し込みは平成28年8月19日(金)までに郵便振り込みでお手続きください。

事前登録：会員5,000円、非会員6,000円、学生(大学院生・研修生は除く)1,000円

※事前申し込み期日を過ぎた場合は、下記の金額を学術集会当日、会場でお支払いください。

当日参加：会員6,000円、非会員7,000円、学生(大学院生・研修生は除く)2,000円

事前登録時のお振込先：【口座番号】02250-5-139714 【加入者名】第14回日本生殖看護学会学術集会
通信欄には、①氏名 ②区分(会員・非会員) ③抄録集の発送先住所 ④電話番号 を明記ください。

●ランチョンセミナーのご案内

事前参加登録者および若干名分の昼食をご準備いたしますので、事前参加登録をしていただくことをお勧めいたします。

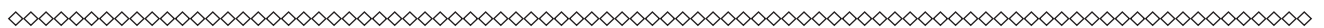
●お問い合わせ先

第14回日本生殖看護学会学術集会事務局（担当：高橋恵美子、野澤美江子、大谷 良子）

東北大学病院婦人科外来 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1

事務局E-Mail：jsfn14-office@umin.ac.jp

学術集会HP：http://www.jsfn14.com/



第11回生殖看護実践セミナー

【テーマ】「生殖医療における多様なモラル・ジレンマ」

【日時】平成28年10月29日(土) 13：30～16：00

【場所】順天堂大学浦安キャンパス（千葉県浦安市高洲2-5-1）

【目的】生殖医療における様々なモラル・ジレンマとその背景にある生殖医療のメリット・デメリットについて理解します。ディスカッションでは、身近なモラル・ジレンマに関して自己の価値観にも目を向け、その対応と課題について検討したいと考えています。

【内容】1. 講演「生殖医療におけるモラル・ジレンマ～生命倫理の立場から考える～」

講師：小林亜津子先生（北里大学一般教育部教授）

2. グループディスカッション

【参加費】会員 無料 非会員 1,000円

【お申込み】参加ご希望の方は、お名前、ご所属、連絡先、会員番号を明記の上、10月20日(木)までにメール又はFAXでお申し込みください。皆様のご参加をお待ちしております。

【お申込み・お問い合わせ先】日本生殖看護学会教育推進委員会 担当：青柳 優子

e-mail: jsfn.edu@gmail.com FAX: 047-350-0654



これから行われる学術集会・研修会情報 (2016年7月～10月)

月	日	学会・研修会名	会 場	学会 HP / 運営事務局
7月	3日～6日	欧州ヒト生殖医学会：ESHRE (第32回)	ヘルシンキ (フィンランド)	学会 HP：https://www.eshre2016.eu/
8月	6日～7日	日本女性心身医学会 (第45回) 「妊娠とメンタルヘルス」	ピアザ淡海 滋賀県立 県民交流センター (滋賀県大津市)	学会 HP：http://45th-jspog-shiga. jimdo.com/ 滋賀医科大学 医学部看護学科 臨床看護学講座 母性看護学・助産学 〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町 TEL 077-548-2433 (立岡) E-mail：jspog45@belle.shiga-med.ac.jp
	27日～28日	日本思春期学会 (第35回) 思春期の心と体の健康 -いかに守り、いかに育てるか-	浅草ビューホテル (東京都台東区)	学会 HP：http://www.pw-co.jp/35jsa2016/ program.html 東京女子医科大学東医療センター 小児科 〒116-8567 東京都荒川区西尾久2-1-10 TEL：03-3810-1111
9月	10日	不妊症看護認定看護師 ポストコース講座 「ガンでもパパママ」	TKP 仙台カンファレン スセンター カンファレ ンスルーム4A (宮城県仙台市)	学会 HP：http://edu-sk.luke.ac.jp/ course/detail/120/
	11日	日本生殖看護学会 (第14回) 「東日本大震災から5年、被災地 から発信する生殖看護～みんなで 始めよう！自然災害への備え～」	東北大学医学部開設 百周年記念ホール (宮城県仙台市)	学会 HP：http://www.jsfn13.com/ 運営事務局 〒980-8574 仙台市青葉区星稜町1-1 東北大学病院産婦人科外来内 E-mail：jsfn14-office@umin.ac.jp
	24日～25日	日本遺伝看護学会 (第15回) 「遺伝看護の専門性と パートナーシップ」	新潟日報メディア シップ (新潟県新潟市)	学会 HP：http://idenkango.com/05/05_1/ gakkai15.html 日本遺伝看護学会第15回学術大会事務局 TEL&FAX：025-227-0948 E-mail：jsgn15@clg.niigata-u.ac.jp
10月	14日～15日	日本母性衛生学会 (第56回) 「母性衛生に携わる喜び ～自負と矜持」	品川プリンスホテル (東京都港区)	学会 HP：http://web.apollon.nta.co.jp/ bosei57/ 東京女子医科大学八千代医療センター 母体胎児科・婦人科 〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田 477-96 TEL：047-450-6000/FAX：047-458-7136 E-mail：bosei-57-2016.cb@twmu.ac.jp
	29日	日本生殖看護学会 第11回生殖看護実践セミナー 「生殖医療における多様なモラル・ ジレンマ」	順天堂大学 医療看護学部 (千葉県浦安市)	学会 HP：http://jsin.umin.jp/study/ index.html 日本生殖看護学会教育推進委員会 (順天堂大学医療看護学部内) E-mail：jsfn.edu@gmail.com

2016年度 第2回将来検討委員会 勉強会報告

将来検討委員会 上澤 悦子、勝又 由美、中村 希、川元 美里

2016年4月16日に第2回将来検討委員会勉強会を聖路加国際大学(東京)で開催しました。今回は『学術集会でああなたの生殖看護を発表しませんか? 抄録とスライドの作成、プレゼン方法を応援します』というテーマで、前半は真部淳氏(聖路加国際病院 小児科医長)による講義、後半は参加者が持参した学会発表や課題についてディスカッションを交えつつの個別相談を行いました。講義ではスライド作成やプレゼンテーションについて、ユーモアあふれるお話をうかがうことができました。個別相談では学術集会での発表予定や院内での実践報告など、それぞれの目的にそった個別相談が展開され、相談をする側だけでなく受ける側にとっても有意義な学びのひとつとなりました。

参加者は18名で、事後アンケート（回答15名、回収率83.3%）によれば会員73%、非会員27%で、職種は認定看護師以外の看護職53%、認定看護師40%、教員7%でした。勉強会を知ったきっかけは学会ホームページが50%、メールによる案内29%、学会ニュースレター21%でした。勉強会の開催時期・開催時間帯は全員が「ちょうど良い」で、開催時間は93%が「ちょうど良い」と回答しました。

勉強会を終えて「学会発表の経験が少ないのでとても勉強になった」「このような勉強会や学会発表前のアドバイスを求める機会が数回あればうれしい」といった感想が聞かれました。勉強会の内容理解や役立ったかを問う設問では10点満点で回答していただき、「スライドや発表資料の作成について理解が深まったか」8.5点、「効果的なプレゼンテーションの方法を知る事ができたか」8.7点、「抄録やスライドの作成、発表について個別指導は役立ったか」8.8点、「全体として勉強会の内容はいかがでしたか」8.8点でした。

参加人数は決して多くはありませんでしたが、勉強会の内容としては概ね好評でした。今後も開催日時や場所を配慮し、研究促進を目的とした内容で企画していきたいです。今回参加できなかった会員の皆様も、次回ぜひお越しください。



2016年度関西地区勉強会報告

報告者 ASKAレディースクリニック 阿比留のり代

2016年3月27日(日)帝塚山大学学園前キャンパスにて「不妊治療と養子縁組」～不妊症カップルに里親制度をどのように伝えるか～というテーマで勉強会を開催しました。24名の方にご参加いただきました。

不妊治療は100%子どもを授かることができるものではなく、治療による経済的・精神的な負担が大きいです。子どもを授かる方法として養子や里子がありますが、いざ養子縁組を考えた時に、養親年齢や養護環境などの条件で断念せざるを得ないことも少なくありません。私たち看護師が不妊治療の選択肢のひとつとして養子縁組について理解し、不妊症カップルに情報提供する方法を考えるという目的で開催致しました。講師の先生には日本子ども支援協会代表理事の岩朝しのぶ先生をお迎えし、里親制度の基礎知識や養子縁組の現状について具体的な事例などをお話ししていただきました。また、実際に子どもを育てることができずに養子という選択をした母の実際の気持ちについてのVTR鑑賞の時間もありました。グループワークには子ども支援協会のスタッフの方々が各グループに1～2名同席して下さりました。養子縁組について情報提供する方が良いと感じている方が多く、今後各施設でどのように伝えていくのが良いか様々な意見交換が行われ、各施設で行われている養子縁組への取り組みや情報提供方法などについて共有することができました。

アンケート結果をみると養子縁組についての知識不足をきっかけに参加されている方が多くいました。岩朝先生のお話を聞き知識が深められ、今後の看護につなげ情報提供する機会を設けたいという意見がたくさんありました。また、今後もこのような機会があれば嬉しいという声もたくさんいただきました。

年度末のお忙しい時期にご参加いただきありがとうございました。



再掲 平成28年度研究助成のお知らせ

会員の皆様の研究活動支援として、研究助成制度を設けています。

詳細および申請書類につきましては学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) をご参照下さい。

締切は2016年6月30日です。皆様のご応募を心よりお待ちしております。

研究助成募集要項

【研究助成の趣旨】

生殖看護の実践に関する調査・研究を支援するために、会員を対象とし、研究費を助成し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】

個人又は共同の研究者を対象とする。

【応募資格】

1. 研究代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同研究者は、申請時に本学会会員である者。

【助成金】

研究助成金は研究計画一編につき10万円を限度とし、当該年度の研究助成は2件までとする。

【研究助成期間】

平成28年9月1日～平成29年8月31日までの1年間とする。

【応募方法】

1. 学会所定の研究助成申請書に必要事項を記載し、2部（正1部、副1部）を下記担当者宛に「研究助成申請書類在中」と朱書きし、書留で送付する。申請書類は返却しない。
2. 応募受付期間：平成28年4月1日(金)～6月30日(木)

【選考及び助成の決定】

研究助成審査会において選考審査の上、平成28年8月下旬に応募者に文書で通知する。選考に関する問い合わせには応じられない。

【助成金の使途】

研究活動に必要な物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【研究成果の報告】

1. 助成を受けた者は、研究が終了後、その結果を理事長に報告する。
2. 研究成果は2年以内に日本生殖看護学会で発表し、さらに日本生殖看護学会誌に投稿する。
3. 研究成果を他に発表する場合には、日本生殖看護学会の研究助成を受けたことを明記する。

<お問い合わせ・申請書類送り先>

川元 美里 (将来検討委員会 幹事)

〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号 聖路加国際大学

TEL/FAX 03-6226-6384 E-mail: jsfnshorai@gmail.com

もし不妊看護の現場で行き詰ったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいる患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや価値観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じることもあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

なお、詳細は学会ホームページをご覧ください。

理事会報告

第2回理事会

日時：2016(平成28)年3月22(土)18:00~21:00

場所：聖路加国際大学本館5階506室

出席者：野澤、上澤、森明、村上、青柳、實崎、有森、崎山、清水、坂上、村本、森恵、高橋(学術集会長)

【報告事項】

1. 第14回日本生殖看護学会学術集会：プログラム、広報活動などの準備進捗状況。
2. 理事長：第19回日本IVF学会学術大会においてIVF学会と共催でパネルディスカッションを予定。
3. 広報委員会：活動計画、NL No.44の発行計画。
4. 教育推進委員会：平成27年度勉強会助成の申請及び助成1件。
5. 実践開発委員会：Fine祭り派遣に関する全国おしゃべり会不妊スペシャリスト相談結果の詳細。
6. 編集委員会：学会誌(第13巻)発行の進捗状況、新潟大学に事務局変更、オープンアクセス化を検討中。
7. 将来検討委員会：第2回勉強会の講演案内と研究助成の告知。
8. 総務：会員管理、HP管理、学会費管理、理事会開催など。
9. 会計：第13回学術集会長からの学会繰越金受領と領収書発行。今年度の委員会決算報告について。
10. 看保連対応WG：診療報酬体系のあり方に関する

検討委員会および総会の参加予定、生殖医療登録施設に対して一般不妊治療の相談活動に関する調査実施中。

11. 健やか親子21推進協議会WG：健やか親子21(第2次)第1回テーマグループミーティングの参加内容。

【審議事項】

1. 入会・退会審査：1名の入会、2名の退会を承認。
2. 第16回学術集会長の推薦：ファティリティクリニック東京の不妊症看護認定看護師・看護師長である菅野伸俊氏の推薦を承認し、実践開発委員会によるサポートを提案。
3. 第11回生殖看護実践セミナー：セミナーのテーマ「生殖医療における多様なモラル・ジレンマ」、講師は北里大学の小林亜津子先生、研修目的、研修内容等の企画を承認。

第2回臨時(書面)理事会

日時：2016(平成28)年2月18日(木)

場所：書面による。

【審議事項】

1. 第19回日本IVF学会との共催プログラム開催を承認。
2. 将来検討委員会第2回勉強会開催を承認。
3. 入会審査：4名の入会を承認。

研究論文を学会誌に投稿してみませんか？

あなたの看護への想いを研究論文として形に残しませんか？
今からこつこつと準備を進め、査読を受け、質の高い論文の作成を目指しましょう！

第14巻第1号学会誌の投稿締め切りは、**平成28年11月末**を予定しています。

*投稿の詳細は、学会誌やHPに掲載する「論文投稿規定」をご確認ください。

日本生殖看護学会 編集委員会

事務局からのお知らせ

1. 4月14日夜以降続く熊本地震の被災県にお住いの会員の皆様に心からお見舞いし、一日も早い復興をお祈り申し上げます。
2. 時節柄、異動・転居された方は必ず事務局までお知らせください。宛先不明ですと、ニュースレター、学会誌をお届けすることができませんので、ご協力お願い申し上げます。
3. 日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、HP、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailもしくはFaxで、気軽にご連絡ください。
4. 学会の年会費は8,000円です。会費納入は、事業運用上、できるだけお早めに、お願い申し上げます。
5. 会員数351名(平成28年3月16日現在)です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN
〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内
TEL & FAX 03-5550-2293
E-mail: jsin@slcn.ac.jp
ホームページ <http://jsin.umin.jp>
口座番号：00170-2-333414
加入者名：日本生殖看護学会

●次号の原稿締切日

ニュースレター第45号の原稿締切日は、
2016年9月26日(月)を予定しています。

勉強会のご案内や開催報告など、掲載を希望する記事があれば、

E-mail : jitsuzaki02@gm.oita-nhs.ac.jp

までご連絡ください。

◆編集後記

今回の熊本・大分地震で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。熊本は私にとって楽しい学生生活を送った思い出深い町ということもあり、先日、熊本市へ行ってまいりました。少し様子が変わった街並みに胸が痛みましたが、大好きな熊本の方々のお役に立つことができればと、全国各地から集まった仲間とともにボランティア活動を行いました。

当学会でも発災後早々に被災地にお住まいのカップルや看護職の皆さま向けの相談窓口を開設しております。被災された皆さまが不自由なく生活できる日が1日も早く訪れることをお祈りしております。

広報委員会 實崎美奈

